

主要損害保険会社の令和7年3月期決算の概要

1. 損益の状況（連結）

- 正味収入保険料は、国内事業では自動車保険や火災保険における料率・商品改定の影響や、海外事業の好調に円安が重なったこと等により、前年に比べ増収。
- 親会社株主に帰属する当期純利益は、国内事業における政策株式の売却益増加に加え、海外事業における円安の影響等により、前年に比べ増益。

（単位：億円）

	令和5年3月期	令和6年3月期	令和7年3月期	前年比
正味収入保険料	120,739	127,771	139,960	12,189
経常利益	8,359	17,470	29,419	11,948
特別損益	307	166	▲ 399	▲ 566
親会社株主に帰属する当期純利益	6,120	14,811	21,698	6,887

2. 健全性の状況（単体）

- ソルベンシー・マージン比率は、国内株式の残高削減による資産運用リスク相当額の減少を主な要因として、前年度末に比べ19.9ポイント上昇。

（単位：％）

	令和5年3月期	令和6年3月期	令和7年3月期	前年度末比
ソルベンシー・マージン比率	742.7	759.3	779.2	19.9Pt

（注）「連結」は、東京海上HD、MS&AD HD、SOMPO HDの3グループを集計。なお、国際財務報告基準（IFRS）を適用している海外連結子会社等において、IFRS第17号「保険契約」を令和6年3月期の期首から適用。令和5年3月期については遡及適用後の数値。

「単体」は、東京海上日動、三井住友海上、あいおいニッセイ同和及び損保ジャパンの4社を集計。